

令和6年度第1回鳥栖市環境審議会 議事録

【日時】 令和7年2月17日（月） 14時00分～16時00分

【場所】 市役所3階大会議室1・2

【議題】 第3次鳥栖市環境基本計画の進捗状況について

(1)令和5年度実績報告

(2)計画に基づく新たな市の取組状況

— 議題1 第3次鳥栖市環境基本計画の進捗状況について —	
事務局	資料1「令和5年度鳥栖市環境レポート」、資料1別紙1「環境基本計画事業評価」、資料1別紙2「取組の柱早見表」をもとに令和5年度の実績報告について説明
会長	鳥栖市の環境レポートの2ページ目と3ページ目の評価が×のところと比較的多い。×のところの目標の川の美しさに関すること・まちの清潔さに関すること・空気のきれいさに関することとあるが、いろんな人の価値観や感覚があって難しい。最近は当事者意識が薄くなっていて、人の感覚に関するところが×になっていっていると思っている。委員や事務局はいかがか。
事務局	このアンケートは小学校の保護者にアンケートを取っている。毎年回答者は変わっている。当事者意識に関してまでのアンケートは取れていない。市内の環境美化活動に関しても一部の方だけでしているため、新しい方にも広める方法として、LTO等で違う範囲内の清掃活動を昨年度から始めている。
委員	CO ₂ を2050年には実質ゼロとするには2030年までもかなり減らさないといけない。市民の方がどれだけ理解しているか。いろんな取組もあるが市民の意識が変わるような違う発想でしないと難しいと思う。また、実質ゼロにするのであれば、焼却を減らす必要があると思う。
委員	川の美しさに関することだが、大木川に5月になると蛍がでる。川は綺麗と感じている。アンケートのまちの清潔さ等は自分の住んでいる場所によって変わるのではないか。場所ごとで結果がわかればいいのかではないか。
会長	「環境基本計画の環境と共生するライフスタイルを子供たちへ引き継ぎます」という漠然としたところで子どもたちに引き継ぐものは何かを考える。環境と共生するライフスタイルを引き継ぐとなった時にそういうライフスタイルを子どもたちに引き継ぐのであれば、そのライフスタイルを大人たちがしなければならぬことになるがそれがいったい何なのかを考えていきたい。また、スコープ等さまざまなソフトウェア使用して粛々と行って行かなければならない。
委員	水の問題は、鳥栖市が下水を始める前に比べたらとてもきれいになったと思う。アンケートを答えた人は昔のことを知らないのではないか。また、ごみ

を減らすという目標があるが、鳥栖は他市町に比べて分別が少ない。他市町はもっと厳しく分別を行っている。プラスチックやトレーなどを分別している人は何%いるのかをアンケートを取ったらいいのでは。燃やす量を減らすには分別しかない、その意識を市民に促すことが大切なことと思う。目標があるが、これを越えていくと気温が上がるとかそういうことを子供たちにも教育を行うべき。市民の意識がないと思う。ごみを減らすためアンケートとってみてはどうか。

委員

以前は意識が高く、プラスチックを分別していたが、市からプラスチックは回収しない燃えるごみで出してくださいと言われて。それは燃えるごみの量が少ないと焼却力の関係といわれた。温暖化に対してマンネリ化している。10年20年前の方が温暖化のことに対する意識が高く、分別もちゃんとしていた。プラスチックの回収を廃止した理由を知りたい。

事務局

市民の方ができることごみの分別をすることで燃やすごみが減ってCO₂の排出量が減るため、分別は市でもしていけないといけない課題だと思っている。出せる場所が町の資源物広場か各事業所・スーパーで回収している店舗か真木町の衛生処理場資源物広場かみやき町のリサイクルプラザに持って行ってもらうことになっているが、地域によって遠くて使いにくいとの声をいただいているので、市も令和5年にゼロカーボンシティ宣言したこともありますし、今回46%削減する2030年度の目標もあるので、ごみの分別を呼びかける時に資源物を出せる環境の整備も必要と考えている。事前説明でもあった生ごみ処理機の補助金を昨年までは市内業者の縛りがあったが今年度からその要件を撤廃したら予算額すぐにいっぱいになった。そういうことをしたいと思っている方は意識があると思うが、行政がそのニーズを捕まえてきれていないところもあるので意見をいただきながら行いたい。プラスチックに関しては以前が燃焼材としての役割もありそういう理由で回収していない時もあったが、去年の4月から真木町に2市3町の新しい燃焼施設ができた。焼却方法がストーカ方式といって炉が24時間稼働しているところで燃料としての位置付けがなくなったので、そういう理由でプラスチックを回収していないという訳ではないが、2市3町で回収したもののストックする場所が課題になる、真木町の昔の焼却施設を今年から解体して令和8年度に新しいストックヤードができますので、製品プラスチックに関しては置く場所の確保した上で、市民の方へ分別を呼びかけたい。

委員

まちの綺麗さは意識付けに大切。ごみ置き場とか町独自で散らからないようにしているが、ちゃんと設置した方がよいと思う。プラスチック集めるなら回収しないとまず無理かなど。真木町まで持っていくのは結構苦である。入れるものも綺麗に作って袋も作って回収するなどしてはどうか。

委員

地区での回収の時にプラスチックの回収も行ってもらえると出しやすい。スーパーの数が減って回収場所も減っている。お年寄りの方などは真木町ま

で持っていくのが難しい。地区で回収してもらえれば回収率が上がると思う。年に1回フリーマーケットを行っているが市民の方の意識付けとして購入してもらったものを量って係数かけて持ち帰ってもらったおかげでどのぐらいCO₂が減らせたかを数字で見せている。その数字はだいたい1時間テレビのつけっぱなしにしているとこれだけCO₂排出し、何時間分にあたります等、伝えることで参加者が環境に貢献できていると思えて、物を処分するときにリサイクルショップに持っていくなど捨てる以外の方法を行うようになる。そのような意識付けを広げていかないと数字やチラシを見ただけでは自分ごととは思えないのでは。

事務局

— **議題2** 計画に基づく新たな市の取組状況について—

資料2 「第2次鳥栖市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づく取組について」について説明

会長

CO₂の排出量が産業部門の割合が高い。家庭や運輸部門に比べて対策しやすいかと思う。委員の脱炭素化ソフトウェアやプログラムを含めて紹介いただきたい。

委員

当社の全国工場は太陽光を設置しているのと、お客様に購入いただいているものへの太陽光パネル設置率90%となっており、創エネの点では貢献できていると思っている。排出自体は下げようとするのが難しい。社内リフトをバッテリー車に全部変更する等、やれることをやっていると思っている。

会長

スコープ1, 2, 3というのは採用されているのか。御社自体が排出しているCO₂はどれぐらいあるのか。サプライチェーンの中でスコープ3を利用してどれだけ正味CO₂を排出しているか計算する取り組みは。

委員

会社全体ではわかっているが、サプライチェーンの中では把握できてない。

会長

SAGAネットゼロコンソーシアムや慶応義塾大学との連携はどこまで進んでいるのか。

事務局

実際にSAGAネットゼロコンソーシアムは佐賀県と県内の市町と佐賀銀行が金融機関で先頭に立って組織自体を引っ張って行っている。スコープ3から排出量を診断するような商品自体の開発もコンソーシアムの中でしてある。中小企業等したくてもできないところもコンソーシアムの中でどういう風に展開していくかを話しているところ。慶応義塾大学も空調にAIを入れる等検討している。パナソニックとは、サガン鳥栖や久光スプリングスの試合の時にソーラートレインやZEBについての職員に向けた研修を行っている。今後は事業所から市民に広げていきたいと考えている。

委員

SAGAネットゼロコンソーシアムの見える化を実際に取り組みされている企業があるのか。

事務局

取り組まれている企業数に関して実数を把握していない。コンソーシアム

側からアンケートを取ってもらったが、回答した鳥栖市内の業者が少なかった。回答があったところは何か取組をしたい又は取組をやっているような興味を持っているところのみだったので、取り組めていない企業数の把握が困難となっている。

委員

数字を見て感じたことは令和4～5年度のごみ減っている。理由としては物価上昇の買い控えが鳥栖だけでなく全国的に見て取れるのではないかなど。ごみが減っているからいいことなのかというわけではなく生活から出るごみをいかに減らしていくかを一人一人の意識付け、増えた時に何を減らしていくかをつなげていくのが大事だと思った。

委員

年に1回鳥栖市内の清掃活動を行っているが、あまりごみがない。団体の活動のアピールもあると思う、一昨年は別のことをやってみようとのことで佐賀大学の学生と親子でゲームをしながら、学生にエコの話をしてもらった。サガン鳥栖の試合の会場でブースを作ってやっていた。そういうのが増えたらと思う。

会長

佐賀県地球温暖化対策推進委員の研修会があった。NPOを立ち上げた方がかなりの高齢で若い人が後を継いでくれないと言っていた。一方、若い人は若い人で環境意識が高い。そこをどう盛り上げていくか、世代間ギャップをどうしていくか。

委員

私は緑や水の状況が悪いとは思っていない。今行っている活動を企業に協力をお願いしながら行っていけばいいと思った。子供にはどのようにして取り組みを一緒にやっていくべきか考えさせられた。

委員

EV車にスタンドの工事はいくらぐらいかかるのか。

事務局

100万～200万円未満ぐらいかと。市役所敷地西側にも設置されている。企業の自社所有での設置のため、市は場所の提供のみ。市費での設置ではない。

委員

スタンド作ってもEV車を買う人がいないと意味がない。そっちの意識を補助金とかそっちの推進が大事。家庭内で子供と一緒にごみ捨てに行く運動をするなど家庭内で促していくことも大事。

委員

私が見ている限り川はきれいだと思うから、悲観する必要はないと思う

委員

学校でできること・環境教育を進めていくことを家族と一緒に活動をするように働きかけをしていかなければいけないのかなと思う。それとCO₂を減らすところに着眼なされているが、森林を増やすことや緑地化していくところにも目を向けていく必要があるのかなと思う。実質0ということなので、排出0はならないと思うから相殺して0という考え方なのでそこにポイントを置いてもいいと思う。

委員

木育の活動をしている森林保全や木の大切さについて学んでもらう活動をしている。うちの職員は全員佐賀県より環境サポーターを委嘱されている。その関係で保育園幼稚園に伺って木育授業で木工作などを行っている。そのな

かで必ず温暖化防止の話を子供向けにしてください。ということが課せられているので紙芝居やいろんなものを使って啓発を行っている。「水を大切に」で川の美しさを書いてあるが、川の美しさは水のきれいさもあるが、河川全体の保全や整備状況が関わってくると思う。場所によっては土砂が流れ込んでいたり、雑草が生い茂っていたりなどで川の流れが見えないところもある。そういうところを見て×をつけているのかもしれない。水質的にはきれいだと思っている。

会長
委員

細かいアンケート項目があったらいい。

核となる行動をひとつ決めて鳥栖はこれが強いという取り組みができればいいと思う。いろんなことをやって少しずつ減らしていくのもいいが、一つ決めて取り組むと自ずと他のところも上がっていくのかと思う。何か1つ柱を見つけていただければいいと思う。

会長
事務局

他にないようでしたら閉会する。事務局から何かあれば。

審議会の委員任期は今年度、令和7年3月までとなっている。環境基本計画が令和4年度から令和13年度までの計画になっていて、令和8年に中間見直しを行う。令和7年から8年は計画の作成を委員の意見を参考に行っていきたい。本日の会議記録については、後日公開する。

ありがとうございました。

— 議事終了 —